

# 協調学習デザインへの課題分析活用の試み

## Application of Task Analysis to the Design of Cooperative Learning

宮原 詩織 (MIYAHARA Shiori) ・ 木谷 紀子 (KITANI Noriko) ・ 野澤 亜伊子 (NOZAWA Aiko)  
[miyahara@mail.benesse.co.jp](mailto:miyahara@mail.benesse.co.jp)      [kitani@mail.benesse.co.jp](mailto:kitani@mail.benesse.co.jp)      [bcz005489@mail.benesse.co.jp](mailto:bcz005489@mail.benesse.co.jp)

ベネッセ教育研究開発センター (Benesse Educational Research and Development Center)

〈あらまし〉 協調学習の初期設計として、インストラクショナルデザイン・プロセスの1ステップである課題分析を試行した。この結果を共有してチーム設計の拡散を防止し、初期設計の礎にできた。この事例から、システム・アプローチの有用性についても言及したい。

キーワード：インストラクショナルデザイン・プロセス，課題分析，協調学習デザイン

### 1. 背景 / 目的

インストラクショナルデザイン・プロセスの初期設計では、課題分析の結果をもとに最もわかりやすい順序で授業や教材を構成する。

しかし、久保田(2000)は、「構成主義の教育理論では、教授すべき知識がどのような構造を持っているかということに焦点を当てることはあまり意味を持たなくなる。」と述べている。

このように、具体的な文脈で主体的に目標を設定する協調学習において、課題分析は重視されない。一方その実践からガイドラインや理論は提示されているものの、デザインの礎は提示されていない。

そこで、協調学習の初期設計で課題分析を実施し、デザインに活かせるか、検証した。

### 2. 方法

成人が具体的な状況で文章表現力を学ぶ協調学習を想定し、以下の手順で課題を分析した。

1. ゴールを設定する。  
「自分の主張が読み手に伝わるよう、わかりやすく論理的な文書を書ける」
2. 学習課題の種類を定義する。  
「知的技能（ルールの応用）」
3. 課題分析の種類を決定する。  
「階層型アプローチ（縦の展開）」
4. 設定したゴールを複数の目標に分解し、目標ごとに複数の課題分析図を用意する。
5. 目標を達成するのに必要な技能や知識は何かを問い、その目標の下に分解する。
6. 分解された技能に必要な技能や知識は何かを問い、その技能の下に分解する。
7. 学習者の前提に達するまで分解する。
8. 残りの目標を、5～7の手順で分析する。

### 3. 結果

#### 3.1. 課題分析の結果

まず、ゴールを目標に分解した手順4の結果を示す。

- a 論理的な文章で主張を表現できる。
- b わかりやすい文書を作成できる。
- c 文書をレビューして改善することができる。

次に、目標bを分解した手順5の結果を示す。

- b1 用途に応じて表現を使い分けられる。
- b2 読みやすい文章を書ける。
- b3 見やすい文書に仕上げられる。

さらに、b1を分解した手順6・7の結果を示す。

- b1-1 読者を想定できる。
  - b1-1-1 必要な専門用語だけを用いられる。
  - b1-1-2 新出語を定義してから使える。  
→前提：読者を想定できる。
- b1-2 適切な文体を使える。
  - b1-2-1 文語を正しく使える。
  - b1-2-2 文語と口語を区別できる。  
→前提：文語と口語の定義がわかる。
- b1-3 箇条書きの表現を効果的に利用できる。
  - b1-3-1 箇条書きに適した内容がわかる。
  - b1-3-2 順序性のある事柄に数字を使える。
  - b1-3-3 順序性のない列挙に記号を使える。  
→前提：2種類の箇条書きを知っている。
- b1-4 目的に応じて図表を使い分けられる。
  - b1-4-1 表・グラフ・図解の利点/欠点がわかる。
  - b1-4-2 表に適した内容を特定できる。
  - b1-4-3 グラフに適した内容を特定できる。
  - b1-4-4 複雑なアイデアを図解できる。  
→前提：表・グラフ・図を書ける。

最後に、こうして分解した3つの目標のうち、「b わかりやすい文書を作成できる」の課題分析図を示す。

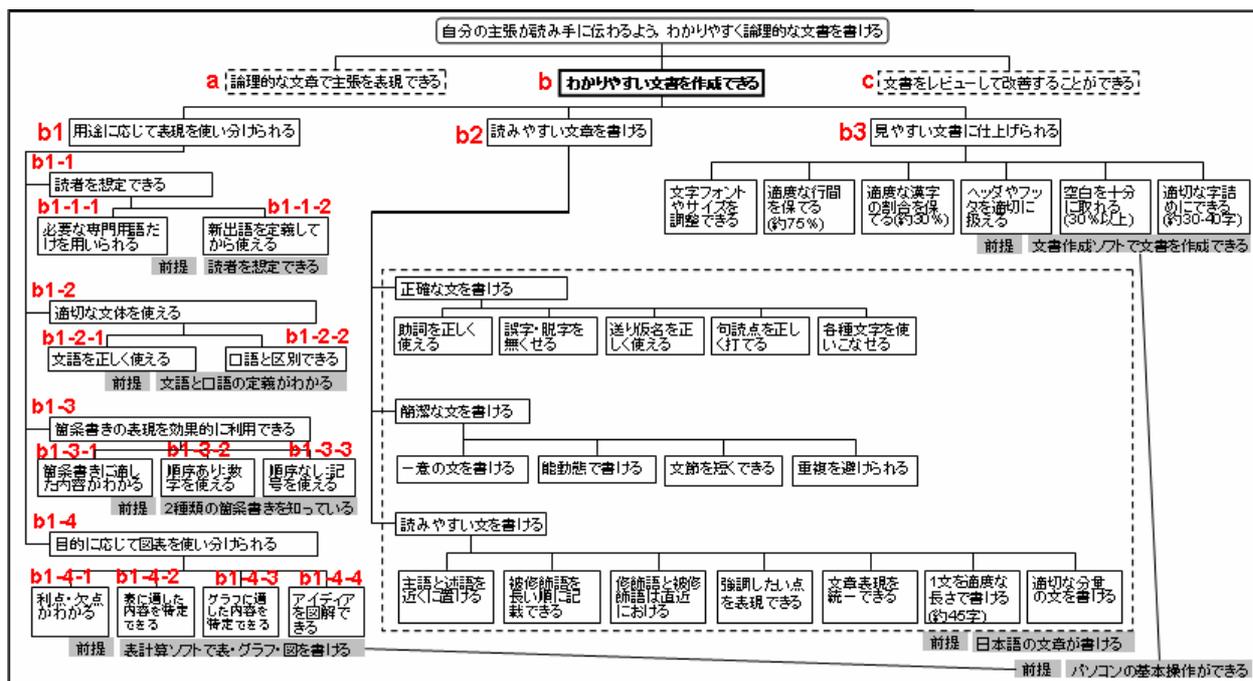


図1: 「b わかりやすい文書を作成できる」の課題分析図

### 3.2. 課題分析図の利用

課題分析図をもとにチームで設計を検討すると、以下のように具体的な状況が提案された。

下のように具体的な状況が提案された。

- ・ 上司から、20代の若者がよく見るブログをまとめて欲しいという指示を受けました。この指示に対してどのような文書を書きますか？
- ・ あなたはB社の社長です。ある日、株の購入を検討中の相手に文書でアプローチするチャンスを得ました。どのようにアピールしますか？
- ・ 商品モニターに採用されました。使用感や類似製品との違いをどのようにレポートしますか？

### 4. 考察

課題分析は本来、学習順序や前提条件を把握し、学習目標・学習活動・評価の整合性を保つために実施される。この目的は協調学習のデザインにかなうものではない。協調学習は教師や設計者の提示した順に学ぶのではなく、学習者が自ら学びの意味を見出すからである。

しかし今回の実践をとおして、課題分析を協調学習の初期設計に活用すると、次の利点があることがわかった。

- ・ チーム設計に役立つ
- 設計メンバーで具体的な学習内容を共有したので、議論の焦点を設計に絞ることができた。デザイン・プロセスが標準化されている教材や授業と比較して、協調学習の設計には集団知の

威力が発揮される機会が多い。課題分析図をもとにすると、より生産的に議論できる。

- ・ 協調学習の要素を具体的に検討できる
- 学びの過程を具体的に想定したので、学習者同士の関わり方、支援の仕方、学習素材のあり方など、協調学習の要素を検討できた。課題分析図を土台にすると、円滑な学習の流れを支援できるだろう。

構成主義はすべての知識は文脈に依存すると定義するため、手順に沿った制作に否定的である。しかし課題分析のような既存のシステム・アプローチも、多様なリソースの1つとして活用すれば、協調学習を促進できるのではないだろうか。

### 5. 今後の展望

今後は状況を具体化して、協調学習デザインに活かす予定である。さらに設計を進める上で、構成主義のデザイン理論も実証していきたい。

将来は、このような実践の蓄積から得た知見を、事業のベースにつなげたいと考えている。

### 参考文献

- 久保田 賢一 (2000) 構成主義パラダイムと学習環境デザイン, 関西大学出版部, 大阪, p.28
- 鄭 仁星・久保田 賢一他(2006) 遠隔教育とeラーニング. 北大路書房, 京都
- 鈴木 克明 (2002) 教材設計マニュアル 独学を支援するために. 北大路書房, 京都